



平成24年度講演会

11月1日(木)、当協議会主催の講演会を千葉市生涯学習センターの大研修室を会場に、一般公募の方を含め66名の参加を得て開催しました。

今回は、「電子書籍の可能性～利用と課題～」をテーマに電子書籍事業の第一人者としてご活躍されております株式会社 紀伊國屋書店 e コマース事業本部 理事の牛口順二様をお招きしての開催でした。昨今話題の電子書籍に関して、その歴史から今後の可能性まで幅広く学べる有意義な講演会となりました。



《 千葉市生涯学習センター 》

- 講演会 14:00～16:00
- ・ テーマ 電子書籍の可能性～利用と課題～
- ・ 講師 牛口 順二 氏 (株式会社 紀伊國屋書店 e コマース事業本部 理事)

講演会報告

講演会「電子書籍の可能性～利用と課題～」の報告

千葉市生涯学習センター 調査・資料室 広嶋 嘉彦

平成24年11月1日、千葉市生涯学習センターの大研修室を会場として、「電子書籍の可能性～利用と課題～」の講演会が開催されました。

この講演会では、株式会社紀伊國屋書店 e コマース事業本部理事の牛口先生に講義形式で、①電子書籍とは何か、②日本の電子書籍事情、③電子書籍の可能性についてお話をいただきました。



《 講演中の牛口氏 》

まず、電子書籍とは何かから講演会が始まりました。

V.R.McCrory の定義による電子書籍は、「図書を読む疑似体験ができる閲覧ソフトを備えた機器またはシステムで表示される電子コンテンツ」、「電子コンテンツを表示する携帯型の読書システムそのもの」となっています。電子書籍には、何を読んでいるか周りの人に判らない、紙・インク等の資源を消費しないというメリットがあります。しかし、高価な端末機を用意することが必要、操作方法等を事前に習得することが必要というデメリットもあります。



《 齊藤 誠 一 会 長 》

次に、日本の電子書籍事情の説明がありました。ここでは、日本の電子書籍出版の歴史、日本の電子書籍の現状、電子書籍活性化への動きについての説明がありました。

1985年 CD-ROM 出版物として三修社から『最新科学用語辞典』が登場し、日本の電子書籍出版の歴史がスタートしました。その後、1987年岩波書店から『広辞苑』が登場し、ヒット作となりました。さらに、1999年 NTT ドコモがiモードサービスをスタートさせ、ケータイ小説や携帯向け電子コミックの配信事業が始まりました。それに加えて、KDDI や J-フォン等も配信を始め、ブームとなりました。

日本の電子書籍の現状は、電子辞書・ケータイ向けコミックスと小説が電子書籍の市場を形成しています。しかし、現在、日本では電子書籍があまり普及はしていません。それは、コンテンツ（書籍タイトル数）が不足しているからです。これは、画像自動テキスト化技術（OCR）の限界等のデジタル化コスト問題、著者との出版契約等の権利処理上の問題等が原因となっています。また、急激なビジネスモデルの変更への危惧等も電子書籍の普及を阻む原因となっています。これは、リアル書店はどうするのか、印税の支払い方法や販売価格決定をどうするか等が問題となっているからです。

電子書籍活性化への動きとして、総務省・経済産業省・文部科学省が様々な支援事業を行っています。また、講談社が全新刊を電子版でも刊行を発表する等、新刊段階からの電子化の拡大や電子書籍を前提とした出版の試みも出てきています。さらに、海外大手企業の参入の予定もあります。これらにより、2012年本格的に市場が拡大する動きがあります。



《 講 演 会 の 様 子 》

最後に、電子書籍の可能性の説明がありました。現在、文字情報流通の担い手は新聞・雑誌・書籍の紙媒体から、ブログ・eメール・データベース・twitter等の電子媒体へと変化してきています。しかし、全てが電子となるのではなく、しばらくは印刷書籍市場と印刷書籍の電子化が共存し、その後、次世代電子出版市場が誕生することが予想されます。

また、他にも電子出版の増加に伴い、変化が予想されることがあります。それは、自主出版の増加です。

印刷コストの軽減等により出版に対するハードルが低下し、これまでにない出版物が生まれる可能性とともに、信頼性の低い書籍が出版される可能性が高まります。実際、米国ではこうした質の低い出版物も増加しました。

電子書籍の可能性の最後に、利用者の利便性と権利者の保護のどちらを優先させるか等、技術的側面だけでは解決しない問題が電子書籍にはあるという説明がありました。



《 質疑 応 答 の 様 子 》

この「電子書籍の可能性～利用と課題～」の講演会は、今後展開されるであろう電子書籍業界の動きやその理由を分かりやすく説明していただいた講演となりました。

「加盟館紹介展」を実施しました！！

事 務 局

「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」について知っていただき、加盟館を多くの方に利用していただくことを目的に、平成18年度から「加盟館紹介展」を実施しています。

今年度は、10月27日（土）～11月6日（火）の期間、千葉市生涯学習センター1階のアトリウムガーデンを会場として実施しました。期間中は約2,000名の方にご来場いただき、各館の工夫を凝らした展示に、来場者の方からは好評をいただきました。



《 アトリウムガーデン 》

加盟館紹介展の全景
その1



加盟館紹介展の全景 その2



協議会の説明

- ・協議会概要
- ・加盟館マップ
- ・加盟館一覧

加盟館の紹介パンフレット等



千葉明德短期大学
図書館

千葉経済大学総合
図書館

千葉県立中央
図書館



千葉市教育センター
図書資料室

千葉市議会図書室

千葉市みやこ図書館

千葉市美術館
図書室

千葉市花見川
図書館

東京情報大学
情報サービス
センター





千葉市生涯学習センター調査・資料室
 千葉市若葉図書館
 千葉市稲毛図書館

東京歯科大学図書館
 千葉県立保健医療大学
 敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター



増田学園図書館
 日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館
 千葉市中央図書館

放送大学附属図書館
千葉大学附属図書館



放射線医学総合
研究所図書館
淑徳大学附属図書館
千葉図書館

千葉市緑図書館
神田外語大学
附属図書館





千葉市美浜図書館
植草学園大学図書館

千葉市図書館の配置図
千葉市図書館の利用の仕方



一般の方への利用説明

~~~~~

◇千葉市図書館情報ネットワーク協議会ホームページ  
<http://www.ccal.jp/>

Network通信 No.38  
2012年12月25日  
発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内  
〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7  
Tel 043-287-4081  
Fax 043-287-4074